

広報九州



平成21年7月10日

(2009年)

No 1650

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>



全員が扇ヶ鼻に登頂／自然を満喫しガッツポーズの参加者ら

1 回部 第1 森林倶楽部

新緑の高山植物を満喫 久住高原「扇ヶ鼻」を19人訪ねる

5月31日、九州森林インストラクター会の企画で第1回九州森林倶楽部「新緑とミヤマキリシマの久住高原を訪ねて」を実施。19人の参加者が、大分県久住高原の「扇ヶ鼻（1698m）」を訪ねました。

当日は天候にも恵まれ、今回の目的地「扇ヶ鼻」を目指して森林管理局をバスで出発。バス内では九州森林インストラクター会の安楽行雄会長から久住高原周辺の高山植物について説明を受けました。

登山口の牧ノ戸峠に到着すると、参加者は3グループに分かれて同インストラクター会メンバーの説明を熱心に聞きながら、ミヤマキリシマを始め、イワカガミ、ハルリンドウ、ツクシドウダン、コケモモなど多くの久住高原の高山植物を観察しながら登山道を散策しました。途中、岩場やガレ地など足場の悪い場所もありましたが参加者全員が登頂できました。

頂上では、久住連山やミヤマキリシマの群生地などの雄大な

景観を満喫するとともに貴重な自然の大切さを実感しながら、昼食をとりました。

参加者からは「植物の詳しい説明を聞くことができました。久しぶりに山に登りリフレッシュ出来ました」などの声が聞かれ、無事第1回九州森林倶楽部を終えました。

(担当：指導普及課)



森林インストラクターの説明に熱心に耳を傾ける参加者

自署の名山



長崎森林管理署

雲仙千々石森林事務所

森林官 蒲池勝也

我が署あるいは長崎県を代表する山といえば、やはり雲仙岳ではないでしょうか？今回、長崎署からは普賢岳周辺、通称「雲仙岳」を紹介させていただきます。

はじめに、島原半島の国有林は、3森林事務所1治山事業所の体制で管理経営を行っています。同半島は最高峰の平成新山1483mを筆頭に、普賢岳1359m、国見岳1347m、妙見岳1333m（ロープウェイ



平成新山と眉山



平成新山

いで山頂付近まで行けます）、野岳1142m、九千部岳1062mなどが聳えます。それらの周辺には600m〜800m級の山があり、北部には吾妻岳870m、島甲山822m、舞岳703mが、東部には眉山819mが、南西部には矢岳940m、高岩山881m、絹笠山870mなどがあります。

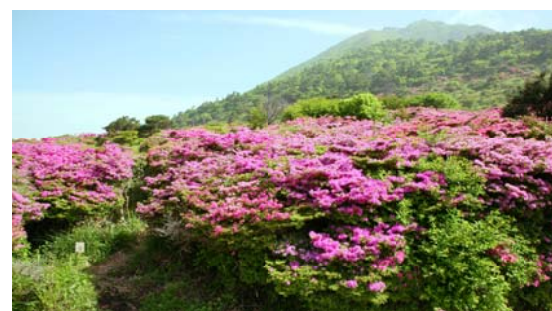
雲仙岳は古くは「温泉岳」と書いて「うんせんだけ」と呼ばれており、仏教修業の地として比叡山、高野山と共に栄えたといわれており、異国降伏の神が宿る信仰の山として慕われていたようです。

絶景！雲仙岳 山でひと汗・ゆったり温泉

1934年（昭和9年）に日本最初の国立公園「雲仙天草国立公園」に指定され、開発の制限とともに自然が保護されてきました。この指定の際に現在の「雲仙」に改められたそうです。1990年（平成2年）11月には雲仙岳の主な峰であった普賢岳が噴火し、新たに平成新山が誕生しました。現在でも山頂付近は警戒区域になっており、立ち入りは禁止されていますが、普賢岳付近からの眺望でも、そのスケールや迫力・雄大さが体感できます。また、島原半島一体は日本ジオパーク第1号に認定されており、現在、世界ジオパークの認定を目指しているところでもあります。

次に、四季折々の顔を見せてくれる雲仙では、4月にはミツバツツジなどが咲きはじめ、5

月中旬ころには雲仙市の花として指定されているミヤマキリシマが、6月中旬ころには雲仙市の木として指定されているヤマボウシの花が開き、また、秋の紅葉、冬の霧水（地元では親しみを込めて「花ぼうろ」と呼ば



雲仙つつじ（ミヤマキリシマ）群落

れています」と四季を通じ訪れた人々を楽しませてくれます。また、野岳イヌツゲ群落・シロドウダン群落・アザミ谷周辺のモミの巨木なども見ることができ、登山・観光・森林浴の方々を喜ばせています。さらに今年

の4月1日より、仁田峠循環道が無料になり喜ばれているようです。

山でひと汗かいて下山したら、雲仙温泉でゆっくり白濁の湯で疲れを癒やすのが雲仙流だとか？・・・さあ！皆さんも一度は雲仙岳にきて、その絶景大パノラマを体感してはいかがでしょう。

観察会で自然を満喫

【熊本南部森林管理署】環境省希少野生動植物種保存推進員である乙益正隆氏を講師に招き、球磨郡五木村仰鳥帽子山登山口周辺で第2回「人吉・球磨自然観察会」を行いました。当日は、一般参加者、当署職員の総勢64人がヤマアジサイやアケボノソウなど「石灰岩の山で見られる植物」について観察し、講師の説明にメモを取りながら学びました。また、アカショウビンやホトトギスの鳴き声が聞けたり、シカとイノシシの足跡が並んで見られるなどその違いについても学ぶことができ、参加者は、五感をフルに使って自然を満喫していました。



乙益氏の説明にメモをとる参加者＝熊本南部



改良点など説明を受ける参加者＝大隅

低コスト路網で研修会

【大隅森林管理署】南方森林事務所管内の大谷添国有林内において、県出先機関の職員、林業事業体、当署職員など90人が参加して低コスト路網の研修会を実施。当日は、森杜産業株式会社の田邊由喜男氏を講師に招き、線形の考え方やスイッチカーブ、洗越など従来の低コスト路網を改良した点などについて説明を受けました。新たな技術を

導入した低コスト路網の定着や地域の特性に応じた路網整備を図る上で、大変有意義な研修会となりました。

不法投棄ゴミ回収に汗

【屋久島森林管理署】当署管内の工事関係者によるポランテア活動が行われ、林道脇の不法投棄されたゴミなどを回収しました。当署職員も参加し、トラックいっぱいゴミや鉄屑などが集まり、観光道路となっている



ゴミを回収する参加者＝屋久島

林道の周辺が、大変綺麗になり、

作業を無事終了することができました。

児童らがシカネット設置

【大分西部森林管理署】大分県宇佐市安心院町の中州国有林において、宇佐市立深見小学校福貴野分校の児童や祖父父母らが、3月に植樹したヤマザクラなどをシカの食害から守るため、森林官の指導で防止ネットを設置しました。児童らはその後、ヒノキ林内に自生するナガバモミジイチゴ狩りを初体験。トゲに悪戦苦闘しながら黄色に熟した実を収穫しました。児童の中には、収穫しながら食べて「美味い」と感嘆し自然の恵みを堪能していました。森林の重要性について学習や体験を行うなど、今後も分校と連携を図って取り組むこととしています。



シカネットを設置した児童ら＝大分西部



河野 信俊 さん

環境問題という言葉が最近よく目に付きます。その中で、森林が地球温暖化防止に、重要な役割を果たしていると聞きます。その森林が二酸化炭素を沢山吸収しているそうです。その二酸化炭素を1990年と比較して6%削減する計画があり、そのうち3.8%が森林吸収による

削減となっています。私は森林に対しての内容が理解できなかったので森林に直接的に携わっている森林管理署の職員に話を聞く事が早道だと思いモニターに応募しました。会議や研修において樹木を育て、保護し後世に繋げようとする思いが伝わってきました。

間伐した材の処理、伐採し

た跡地の植林、その後の維持管理、多くの諸問題が山積していました。前に進む事が大変困難な状況にあるのは否めなく、また、莫大な費用と労力、時間が必要な事がわかり勉強になりました。それでも二酸化炭素を減らさなければならぬ事は確か

未来へ続く森林づくり

です。また、伐採した樹木に対して、それに見合った対価が得られるかどうか疑問でした。安い外国産の木材が輸入されるからです。

山、森、あまり関心のない自分が今、不思議な気持ちです。これまで、普通のアクションフ

ルドが海中心であり、殆ど立ち寄った事のない山や森に非常に興味を覚えています。それは年齢を重ねたからかも知れません。まさに、海にのめりこんでいた頃の自分、それと同じ思いを山、森、樹木や草花に魅せられています。

少し仕事に余裕ができて、健康増進を兼ねて今住んでいる大分県の人々を訪ね歩く事に生きがいを感じている今日この頃です。

最後に、山や森は一度入ると病みつきになりますよ、人間と同じで多種多様な顔があり、こちらが笑顔でやさしく接すれば温かく迎えてくれます。

(大分県別府市在住)

平成21年度 国有林野事業職員定期表彰式



勤続30年の感激を胸に

職員定期表彰式

永年勤続の功績称え

1級31人と2級8人 農林水産大臣表彰

6月11日、九州森林管理局2階大会議室において、国有林野事業職員定期表彰式を開催。1級精勤章（勤続30年）31人と2級精勤章（勤続20年）8人を表彰しました。

式典には1級精勤章受賞者と配偶者をはじめ、来賓や局幹部など約60人が出席。はじめに津元頼光局長が

「皆さまのこれまでの努力と苦勞に敬意と感謝の意を表し、心からお祝い申し上げます」と式辞を述べたあと、受賞者を代表して熊本森林管理署の沼津浩明技官に農林水産大臣の表彰状を伝達しました。

その後、林野庁長官の祝辞を山元康則総務部長が代読。続いて全国林野関連労働組合九州地方本部の永山博美書記長から来賓祝辞をいただきました。

最後に、企画調整室の岩下哲博技官が「この栄誉と本日の感激を糧に、国有林を国民の森林として未来へ引き継ぐため、更に全力を傾けます」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典を終わりました。



津元局長が熊本署の沼津技官（右）に表彰状を伝達



受賞者を代表して祝辞を述べる企画調整室の岩下技官

その後、林野庁長官の祝辞を山元康則総務部長が代読。続いて全国林野関連労働組合九州地方本部の永山博美書記長から来賓祝辞をいただきました。

氏名・所属は次のとおりです。

1級精勤章（勤続30年）

◇定員内職員◇・・・28人

津元頼光（局長）

岩下哲博（企画調整室）

渡邊昭博（企画調整室）

猪島浩晴（総務課）

煤本憲三（職員厚生課）

築川伸一（計画課）

村上利晴（計画課）

森永敏朗（森林整備課）

吉田真佐也（森林整備課）

山部義臣（治山課）

山上哲幸（長崎署）

沼津浩明（熊本署）

竹部浩一郎（熊本署）

山村晃弘（熊本署）

岩下真仁（熊本署）

渡邊治雄（熊本南部署）

白田浩臣（熊本南部署）

入江和浩（熊本南部署）

杉中邦浩（大分西部署）

山部国広（大分署）

高倉邦彦（大分署）

河野幸夫（大分署）

穴山信二（宮崎北部署）

笹岡哲也（宮崎署）

寺田雄一郎（宮崎南部署）

嶋崎国浩（北薩署）

緒方省一郎（北薩署）

祐野誠治（沖縄署）

◇基幹作業職員◇・・・3人

小河浩幸（熊本署）

松延和幸（熊本署）
井手満利（熊本署）

2級精勤章（勤続20年）

◇定員内職員◇・・・7人

加藤吉征（計画課）

松岡良二（治山課）

那須芳広（大分署）

中西秀博（宮崎北部署）

山本 歩（都城支署）

浅尾純治（鹿児島署）

草野正揮（屋久島署）

◇基幹作業職員◇・・・1人

満留 豊（大隅署）

（担当＝総務課）

シカネットの補修を実施



補修作業を行う参加者の皆さん＝宮崎北部

【宮崎北部森林管理署】椎葉村の三方界国有林内において、当署職員をはじめ、椎葉村や五ヶ瀬町役場職員、霧立山地の自然環境を守る会会員など10人のボ

ランティア参加の下、シカ食害対策を行いました。当該地は平成17年にキレンゲシヨウマなど希少種の保護のためにボランティアで設置した個所。岩石の崩落などによりシカネットが破損しているため、今回、補修と設置個所の取り換えを行ったもの。当日は、上椎葉森林事務所森林官が作業内容を説明後、早速、作業に汗を流していました。

JICA研修生を受入

【西表森林環境保全ふれあいセンター】JICA研修生ら11人を沖縄県西表島の仲間川流域



学生時代以来32年ぶりの福岡生活が始まり、署周辺や百道浜の町並み、ヤフードーム及び都市高速等の変化は目を見張るものがあり、まさにに浜に上がった浦島太郎の心境と憧惑しています。

そうした中、先日懐かしの母校に同級生の吉田先生を訪ねましたが、嬉しいことに伊都キャンパスへの移転がまだの農学部は昔の姿のままに箱崎にあり、教授の部屋や学生の研究室、講義を受けた教

などで当センターが行っているモニタリング調査個所に案内し、調査内容などについて説明を行いました。今回は、NPOおきなわ環境クラブがJICAより委託を受け、沖縄県内を主体にエコツーリズムの実践事例、自然環境の保全などについての研修を行っているものの一環として、当センターへ「森林生態系保護地域内におけるモニタリング調査等」について研修の要請があったものです。当初、研修生は職員の説明を熱心に聞いているだけでしたが、最後の南風見田の海岸では砂防に適する樹

室等は、当時と主は変わっても、独特の雰囲気があり、その佇まいは青春時代にタイムスリップするに十分の雰囲気を感じていました。

ただ、建物は30年の月日でそれなりの歴史を刻み、老朽

30年の月日

化も目立っており、玉手箱を開けた太郎の如く自分の年齢を再認識させられました。が、ちょうど在室していた学生達には、希望に溢れた顔をしており、あらためて将来のある若者の魅力を感じた次第です。

本などについて多くの質問があり、海岸線の保全についての意義を感じました。



JICAからの研修生＝ふれあいセンター

現在、伊都に移転中の大学では、環境配慮、生物多様性の確保を基本としつつ、移転事業を進めていると聞いており、森林等自然を十分に配置するようです。

その地で新たな森林等の研究の歴史が継続されることは、大きな希望と夢あることだと思いますが、同時に、歴史を刻んだ箱崎を離れることに一抹の寂しさを覚えるのは、自分の30年の月日なのかと思うの頃です。

（福岡森林管理署長

津々見正樹）

ボランティアと樹名板設置

【大分森林管理署】地域発案システムの取り組みの一環として、由布市黒岳国有林の登山道沿いの樹木に、公募で募ったボランティア49人と樹名看板45本を設置しました。設置後は「葉で見わかる樹木」の著者で樹木ライターの林将之氏や植物研究員の阿孫久見氏から看板を設置した樹種の特徴などについて解説をいただきました。わかりやすい説明に参加者も満足の様子で、黒岳の自然の豊かさに驚いた1日となりました。



樹名板を設置するボランティア＝大分



7月3日付森林管理局長発令
屋久島署課付

田中善成（屋久島署）



もっくん作りに夢中な児童ら（東京都日比谷公園）

綾プロジェクト

もり 森林の市で普及宣伝 サポーター参加を呼びかける

東京都日比谷公園で開かれた「緑の感謝祭・森林の市」のイベントに出展・参加しました。

両日とも天候に恵まれ、イベント会場には全国各地から70を超える団体が参加する中、「綾の照葉樹林プロジェクト」では、プロジェクトを紹介したDVDの放映、パネルの展示、照葉樹クイズ、モックン作りなど行い綾プロジェクトの普及宣伝やサポーター参加を呼びかけました。

特に、照葉樹林クイズや木と触れ合うモックン作りコーナー

では、子どもからお年寄りの方まで幅広い参加があり好評を得ました。

（担当＝計画課）

事故防止向け「国見岳」巡視

【熊本南部森林管理署】九州



キリは原産地がはつきりしません。日本各地に植栽され、特に九州、北陸、中部地方に多いとされています。キリはゴマノハグサ科、ノウゼンカズラ科、キリ科に分けられ統一されておられません。科名は「牧野新日本植物図鑑」の表記を書いています。

キリは切ると後に若木（ぼう芽）がでて早く生長することから名前が付けられ、女の子が産まれるとキリを植え、結婚するときはそのキリでタンスを作って嫁入り道具にするという風習があり、成長の早い証拠として

脊梁にある国見岳で、昨年遭難事故があったことから。今後、登山者の安全対策に備えるため、登山道の現況を把握すること、迅速に協力体制が取れること、標識類の整備を行うことなどを目的に、工藤篤署長をはじめ森林官や署内職員で、山頂まで約2時間かけて巡視し、標識類の整備を行いました。登山道を熟知することもで初期の目的を果たすことができました。

23キリ（ゴマノハグサ科）「牧野図鑑」

伝えられています。樹木園の奥、西側にあるキリは、名前の由来通りに根元直径1.5mを超える大木の切り株の横にぼう芽2本が直立して胸高直径約24cm、樹高約13mとなっています。

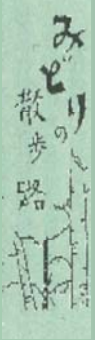
キリは「桐タンス」が最高ですが家紋、琴の本体、50円硬貨の絵、花札の桐など身近な樹木として親しまれています。キリタンスは何故火に強く、燃えないか。細胞組織の柔細胞が多いので燃焼によって割れや隙間ができない、表面が燃えて炭化層ができ断熱層として働いたため燃え尽きるまでに時間がかかるからと推測されています。



標識を整備する職員＝熊本南部



【お詫びと訂正】
先月号の写真および本文31行目「監物台…」から35行目「見られる」の説明は、カシノキ（クワ科）の誤りでした。



今年の梅雨は雨も降らず、新調した傘もさすこともない。通勤者にとっては嬉しい限りである。九州北部では6月9日に梅雨入りしたものの、目にとまった大きな災害もなく、このまま夏本番を迎えられればいいものだが。しかし、ひさびさの熊本の夏、高温多湿に体力が持ちこたえられるか？心配である▼大賀蓮やフランテン（中国古代ハス）など20種のハスが咲く山鹿市鹿央にある古代ハス園に行った。7月初旬から中旬が一番の見ごろだということで、いつもドライブに出かけるときは屋近くなってから出発するのだが、ハスは午前中が特にきれいで、午後には花は閉じてしまうというのを聞いてやや早めの出発となった。施設内にある大小八つの池には、濃いみどりの葉のジャングルにピンク色が映える。散策路では、子供スケッチ大会や写真コンテストなどが開催されていた。ハスの華を見ながらのんびり散歩し、一時古代を忍ぶ▼帰り、近くの道の駅によると、ハスを見に来たのだがと旧知の友人。場所が分からないと…笑い（え）